

令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:休業4日以上)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
1	雄勝	墜落・転落	R5.4.19	男	64	負傷	構造物の補修設計に伴う調査中、コンクリート基礎天端から足をすべらせ地面に落ち、骨盤を骨折した。
2	鹿角	墜落・転落	R5.4.19	男	27	負傷	作業エリアに向かう途中、2階スラブ型枠から1階の床に転落し、足を骨折した。
3	平鹿	墜落・転落	R5.6.13	男	54	負傷	林道から溪流へ下る重機搬入路をバックホウで施工中、バックホウが路肩から逸脱し沢へ転落し、オペレーターがキャビン外に飛び出し肋骨骨折等をした。
4	鹿角	墜落・転落	R5.6.28	男	40	負傷	高所作業車から降りる際に足を滑らせアスファルトに落ち、骨折等をした。
5	仙北	墜落・転落	R5.7.14	男	49	負傷	工事現場内での作業中、運転していたダンプから降りようとした際、ダンプから落下し足を骨折した。
6	仙北	墜落・転落	R5.7.14	男	71	負傷	設置した型枠の上に水替えホースを通す作業中、降雨により濡れた足場から足を滑らせ、1.8mの高さから地上へ転落した。(腕等のしびれがあり1週間入院)
7	仙北	崩壊・倒壊	R5.7.26	男	55	負傷	排水進入路工施工中、掘削高1.45m、掘削幅2.8m、延長6mの掘削断面内の片側法面の土砂が突然崩れ、作業員の右足が基礎版と土砂に挟まれ、骨折をした。
8	秋田	その他	R5.7.31	男	73	死亡	バックホーのオペレーターとして作業を始めてまもなく体調不良になり、しばらく休むが回復しないため病院へ搬送され、熱中症と診断された。その後、回復傾向にあったが、3日後に容体が急変し、死亡した。

令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:休業4日以上)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
9	鹿角	墜落・転落	R5.10.3	男	58	負傷	コンクリート構造物の型枠設置作業中、地山側から型枠へ渡した固定されていない不安定な状態の2枚の足場板を渡り、足を踏み外し2m下のコンクリート床へ落下し、負傷した。
10	仙北	墜落・転落	R5.11.7	男	51	負傷	急傾斜地における立竹木の調査中、地面から出た枝に足をかけたところ足下の枝が折れ、山肌から約3m滑落し、腰部等を骨折した。
11	山本	転倒	R5.12.15	男	56	負傷	測量作業(横断測量)で、盛土法面の法尻に設置された大型土のうから降りようとしたところ、平地(ステップ)に着地できず転倒し、そのまま3m下(谷部)の水路まで転落し、骨折をした。
12	仙北	墜落・転落	R5.12.21	男	49	負傷	橋台冬囲い屋根梁のH形鋼設置作業中、H鋼の設置位置ズレに気づきシノで調整しようとしたが、シノが外れ約8mの高さから転落し、負傷した。(墜落制止器具は着用していたが、次の作業箇所へ移動するためフックを外していた。)
13	由利	墜落・転落	R6.1.11	男	44	負傷	2階現場事務所から外階段で1階会議室へ降りていたところ、上から3段目の踏み板で足を滑らせ(踏み板の一部が凍結)最下段まで3mほど転落し、左足首の骨折等をした。
14	平鹿	はさまれ・巻き込まれ	R6.2.10	男	59	負傷	バックホーの後方に作業員が居り、バックホーが後退する際に両足をキャタピラに踏まれ、両足骨折をした。
15	山本	墜落・転落	R6.3.11	男	68	負傷	水路トンネルの現地踏査で、坑口下流の開水路に梯子で降りようとしたところ、雨で濡れた梯子で足を滑らせ、梯子2段目(水路底面から高さ50cmほど)から梯子と共に開水路へ尻もちをつくように転落し、負傷した。
16	鹿角	激突	R6.3.22	男	66	負傷	鉄板片付作業においてバックホーで大型セルフローダーに6m鉄板を積み込む際、鉄板が斜めに滑って作業員の右足に当たり、裂傷及び足首の骨折をした。

## 令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:休業4日未満)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
1	鹿角	はさまれ・巻き込まれ	R5.6.14	男	74	負傷	梁の中段鉄筋の配筋中、上筋の間から斜めに送った鉄筋が落下し、上筋に掛けていた手の上に鉄筋が落下し、負傷した。
2	仙北	切れ・こすれ	R5.6.29	男	44	負傷	邪魔となる立木の枝払いを、左手にもつ折りたたみ式ノコギリで行おうとしたところ、手が滑り立木をおさえていた右手人差し指にノコギリがあたり、裂傷した。
3	秋田	その他	R5.7.24	男	75	熱中症	交通誘導作業をしていたところ熱中症の症状(ふらつき・めまい)が現れ始めた為、作業を中断し自動車内で休憩し病院へ行き診察を受け、軽い熱中症と診断された。
4	平鹿	その他	R5.7.26	男	不明	熱中症	交通誘導中、頭痛の症状を発症したため、作業をやめさせ水分補給を行い安静にさせた後、病院へ行き熱中症と診断された。
5	山本	墜落・転落	R5.8.4	男	62	負傷	コンクリート取り壊し箇所の鉄筋を切断するために、単管であおって(勢いをつけて)まっすぐにしようとしたところ、滑った勢いで2m程度下のコンクリートの上に落下し、口内裂傷と打撲をした。
6	鹿角	その他	R5.8.4	男	26	熱中症	建物2階の室内でのドレン配管作業中、体の具合が悪くなり、熱中症と診断された。
7	北秋田	その他	R5.8.7	男	68	熱中症	立ったまま休憩していたところ倒れ、熱中症と診断された。
8	山本	その他	R5.8.10	男	74	熱中症	午前中に軽作業を実施(特に体調面は問題なし)し、昼休憩後の作業に来なかったため確認したところ、ダンプトラックの中で具合が悪そうにしていたため救急車で病院へ搬送し、熱中症と診断された。

令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:休業4日未満)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
9	由利	激突	R5.8.18	男	42	負傷	アンカー打込み用の削孔作業をハンマードリル本体にハンドルを装着しない状態で行い、ハンマードリルが回転し口元付近にぶつかり、負傷した。
10	北秋田	その他	R5.8.18	男	59	熱中症	午前中の作業が終了した休憩後(午後からの作業開始後)、重機での作業中にめまいや、足が攣るなどの症状が出たため、病院へ行き、熱中症と診断された。
11	秋田	その他	R5.8.19	男	40	熱中症	コンクリート目地注入作業を行っていたところ気分が悪くなり、現場代理人に報告・休憩後、病院へ行き熱中症と診断された。
12	北秋田	その他	R5.8.24	男	59	熱中症	舗装取り壊し作業中に調子悪くなり、日影で休憩していて現場休憩所に移動しようとしている最中に立ちくらみし倒れ、病院へ搬送され熱中症と診断された。
13	雄勝	その他	R5.8.24	男	30	熱中症	舗装作業中、頭痛の症状が出て自宅療養しても改善しなかったため病院へ行き、熱中症と診断された。
14	鹿角	その他	R5.8.24	男	63	熱中症・負傷	生コン打設中に体調が優れず休憩していたが、熱中症により意識を失い倒れ、額部を裂傷した。
15	秋田	はさまれ・巻き込まれ	R5.8.31	男	63	負傷	水路工作業中、ベンチフリュームをバックホウで吊り上げ反転する際、吊り金具と側溝の間に左手人差し指を挟み出血し、病院へ搬送後、縫合した。
16	鹿角	飛来・落下	R5.10.13	男	24	負傷	既設構造物のはつり作業による破片の片付け作業中、はつり作業によって落下してきた破片がバウンドし、作業員の左手にあたり打撲した。

## 令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:休業4日未満)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
17	由利	転倒	R5.10.17	男	37	負傷	法面の植生基材吹付作業中、ノズルマンが吹付材料の詰まりによる散布ホースの突発的な反動により転倒し、胸部をロックボルト先端部に強打し、肋骨骨折等の負傷をした。
18	山本	墜落・転落	R5.11.14	男	47	負傷	バックホウでの敷鉄板撤去作業中、敷鉄板を吊り上げ旋回した際にバックホウが滑り河川内へ転落し、オペレーターが肋骨骨折等の負傷をした。
19	山本	はさまれ・巻き込まれ	R5.12.8	男	25	負傷	雪崩固定柵の支柱ブレス撤去作業中、ロックボルトのキャップにベース部が引っかかり、それを解除するために手で持ち上げた際、右手人差し指をはさみ、負傷した。(開放骨折)
20	由利	激突	R5.12.13	男	41	負傷	チェーンソーでの伐倒作業中、木に絡まっていた蔓の影響で予期しない方向へ木が倒れ、作業員が避けきれず、激突により額を裂傷した。
21	鹿角	転倒	R5.12.27	男	68	負傷	完成検査の為に除雪をしようと道路を歩行中、圧雪路にて足を滑らせて転倒し、右手首を骨折した。
22	鹿角	転倒	R6.1.16	男	70	負傷	雪道(工事箇所への進入部)でのトラック誘導中に足を滑らせて転倒し、右足の小指と足首を骨折した。
23	仙北	切れ・こすれ	R6.2.8	男	73	負傷	送水管を施工するため、掘削溝内へ塩化ビニル管(VUφ500)を掘削構内(簡易土留め)へ吊り降ろしている最中、管が切り張りに接触した弾みで右手と管口が接触し、親指付け根を裂傷した。
24	秋田	はさまれ・巻き込まれ	R6.3.20	男	20	負傷	消波ブロックの据え付け作業中、玉掛の際に左手中指をフックとワイヤーに挟み、負傷した。

令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:公衆災害等)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
1	山本	公衆災害	R5.4.6	—	—	—	資材の搬入作業を行うトラッククレーン(資材運搬業者)が、架線(電力線)に気が付かずクレーン装置を操作(旋回)し、架線(電力線)に接触し、切断した。
2	鹿角	公衆災害	R5.5.25	—	—	—	管理棟2階部での作業中、建物内部の配管・配線を損傷した。
3	雄勝	公衆災害	R5.6.30	—	—	—	盛土材を運搬していたダンプトラックが、現場に土砂を排出後に荷台を上げたまま走行し、上空にあったケーブルを切断した。
4	秋田	公衆災害	R5.7.10	—	—	—	バックホウの移動中にアームがNTTケーブルに接触し、NTT柱2本と電力柱1本が傾き、光ケーブルの損傷(通信可否は不明)と電線のたるみが発生した。
5	平鹿	公衆災害	R5.7.13	—	—	—	バックホウのアームを上げたまま後進したため、電話線と接触し電話柱が斜めになり、電話線がゆるんだ。
6	北秋田	公衆災害	R5.7.13	—	—	—	草刈り作業中に刈払機のチップソーが飛び、走行中の軽トラックの助手席側窓に接触し、助手席側窓ガラスを破損した。
7	秋田	公衆災害	R5.7.26	—	—	—	土水路の施工中、BHのアームが電線に接触し、切断した。
8	雄勝	その他	R5.8.10	—	—	—	バックホウを現場事務所に引き上げるために移動していたところ、バックホウのアームを上空にあった控え線に接触したまま走行してしまい、引っ張られた控え柱が傾き、架空線(光ケーブル)がたるんだ状態になった。

令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:公衆災害等)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
9	仙北	公衆災害	R5.8.24	—	—	—	ダンプトラックに残った碎石を置場に荷卸し、荷台が上がったまま前進し、光ケーブルに接触し、たるみが発生した。
10	仙北	公衆災害	R5.10.4	—	—	—	バックホウのアーム上げたまま前進移動し、電話線に接触した。(断線していないが、表面被覆材の剥がれとたるみが発生)
11	由利	公衆災害	R5.10.24	—	—	—	水路溝畔の仕上げをするためのバックホウ移動時、朝日の眩しさで目がくらみNTT光ファイバーケーブルとの距離を見誤り、ケーブルにバックホウのアームが接触し断線した。
12	仙北	公衆災害	R5.10.30	—	—	—	バックホウでの土工作业中、アームが電話線に接触し、切断した。
13	仙北	公衆災害	R5.11.30	男	—	—	小型ロータリーでの除雪作業中(道路跨ぎの投雪作業中)、後方からきた軽トラックに気づくのが遅れたため、投雪した雪が軽トラックのフロントガラスに接触し、損傷した。
14	平鹿	公衆災害	R5.12.2	—	—	—	設置足場の被覆作業中に、養生用のコンパネが風で飛ばされ、通行車両の左前方に接触し、ヘッドライトとバンパーを破損した。
15	北秋田	公衆災害	R5.12.4	—	—	—	クレーン付トラックでの仮設トイレの返却運搬時、クレーン付トラックのブームを格納し忘れたまま走行し、架空線(電話線)を切断した。
16	雄勝	公衆災害	R5.12.22	—	—	—	バックホウ移動中、アームをあげたまま走行し、架線ケーブルに接触した。(通信ケーブルは緩んだ状態だがNHK共聴線を切断し、集落全域70戸の全テレビチャンネルが受信不能になった。)

## 令和5年度 事故報告集計表(県発注工事等:公衆災害等)

R5.4.1～R6.3.31

番号	管内	分類	発生日	性別	年齢	被災程度	内容
17	秋田	公衆災害	R6.2.14	—	—	—	残土仮置き場で使用しているバックホウを走行中、不注意によりバックホウのアームがNTTの通信ケーブル(架空線)にひっかかり、ケーブルを切断した。
18	鹿角	公衆災害	R6.3.6	—	—	—	バックホウで旋回する際、周囲をよく確認せず、合図者の誘導も確認しなかったため、NTTの架空線(対象家屋1軒)に接触した。(断線はしていない。)